

# 一龍院だより

〈発行所〉  
修弘山一龍院  
調布市入間町  
1-38-1  
TEL03-  
3308-4440

日蓮大聖人様のお言葉のご紹介

やお寺の行事や日常などを不定期で記事にして発行いたします。ご自由にお持ちになってください。

(第七号彼岸特別号)

日蓮大聖人様の聖語

## この生を空しうする

### ことなかれ

『守護国家論』／

正元元年（一二五九） 聖寿三十八歳

〓 誰かのために〓

みんなそれぞれの立場で懸命に生きてます。健康な人であれ、病気の人であれ、本当にそう思います。善をなして悪をなさない人はなおさらです。仕事や家事、育児、介護、勉強、鍛錬…。すべて誰かのためになろうとする善です。

反対に悪とは故意に誰かに迷惑をかけること、また人や生き物などの心身を傷つけることです。それは自分の「生」の価値を下げます。そんなことをしなくても個々に価値は十分にあります。気づかないだけで一生懸命生きている別の側面が



必ずあるからです。それがわかれば世の中はどんな良くなっていくでしょう。

時には自分の存在を空しく思うこともあるでしょう。これを書いている私も同じです。でもやっぱり明日も生きていかなくてもなりません。誰も傷つけず、逆に誰かを助けながら、ともに生きていきましょう。

### 日蓮聖人ご遺文『守護国家論』

日本が法華経と縁の深い国であることや、この世の中こそが浄土であると解き明かします。この現実社会、すなわち私たちの今生きている世界に価値があることを示したのです。

(日蓮宗今月の法話より)

## 春の彼岸会法要の季節です

彼岸とは「彼岸」つまり、仏さまの世界(浄土)を意味し、私たちが暮らしている苦しみや迷いが多い世界(此岸、しがん)から仏さまの世界に渡ることを「到(とう)彼岸(ひがん)」と呼びます。昼夜の時間が同じになる春と秋のお中日を中心として前後三日の合わせた七日間が「お彼岸」の期間とされ、昔から人々は先祖の墓参りをしたり、お寺で経をあげ、先祖の供養をしてきました。

## お塔婆供養はお墓にお持ちにならなくても大丈夫です

上の写真のように本堂にお供えいたしますので、お墓までお持ちにならなくても大丈夫です。お釈迦様のお墓として古代インド語で「塔」を意味するストウーパが建てられました。お釈迦様が亡くなられた時、この塔を建てて供養したのが「お塔婆」の始まりといわれています。ご自身のご先祖様の供養のために志す事が多いようですが、友人やお世話になった方、また有縁の方にはたむけて、善行を積まれるとよいでしょう。

電話 〇三―三三〇八―四四四〇

修弘山 一龍院